

17. 名誉町民

星野勇三氏

明治8年手向古墓町に生まれ、手向尋常高等小学校、庄内中学校、札幌農学校（現北海道大学）を卒業され「メンデルの法則」を紹介された。

札幌農学校教授、東北帝国大学・北海道帝国大学教授として、日本園芸学会の開拓者として、その名をはせた。大正9年北大付属農場長、昭和11年より13年に至る間、北大農学部長の要職にあり、昭和13年定年退職され、北大名誉教授になる。昭和14年寒院（旧八紘学院）の院長となる。

その間、数々の功績を尽くされ、札幌大通公園・酒田日和山公園・鶴岡公園等の設計指導、55年の長きにわたる育英事業、園芸学界の研究指導等は筆につくせない程である。昭和36年日本園芸学界の功労者として、紫綬褒章を受章している。

昭和37年に初の羽黒町名誉町民の称号が贈られる。

昭和39年に逝去された。

池野勇氏

明治21年手向池ノ仲に生まれ、大東小学校卒業後北海道に渡り、苦学して大正3年医術開業試験に合格、昭和16年父母の遺志を継ぎ帰郷、鶴岡市で開業する。

これまで社会福祉功労賞、動物愛護者として日本シュバイツァー賞、日本医師会最高優功賞など、数多くの受賞がある。

本町に対しては、恵まれない子どものために学用品を贈られたり、給食費の未納者を調べ、こっそり補填したこともある。

このほか、町の社会福祉基金に数百万円の浄財を寄せられたり、若い人にと図書を贈っていたり、常に出身地羽黒町の発展と青少年の成長を願っておられた。

昭和49年に羽黒町名誉町民の称号が贈られる。

昭和53年に逝去された。

寺岡謹平氏

明治24年手向桜小路に生まれ、大東小学校、新庄中学校、海軍兵学校、海軍大学校を卒業、空母赤城艦長、第一・第三航空艦隊司令長官、昭和18年海軍中将に任ぜられる。

長い軍人生活を過ぎたが、戦後は文化、教育面に尽力され、郷土愛に徹し、大東小学校にピアノを贈る運動を始め、多額の資金を出したり、学校、公民館に本や自らの書を寄付された。毎年のように帰郷し、同窓会での講演では若い人を激励された。

大東小学校の校歌の作詞、敬老者への記念品、町内の記念碑などに数多くの揮毫、戦没者追悼集に序を書くなど、後生に残すものが数多くある。

戦後の混乱期から国民生活の向上安定と青少年教育に尽力され、郷土の発展と後輩の指導を心から念願しておられた。出羽三山神社総代を勤められた。

昭和49年に羽黒町名誉町民の称号が贈られる。

昭和59年に逝去された。

上林與市郎氏

明治45年旧泉村戸野に生まれ、大正15年泉小学校高

等科卒業後泉村役場に勤務、その後中央大学法学部英法科に入学、苦学して卒業後、中央社会事業研究生終了、戦時中青年学生と共に酪農を中心とする共同開拓農場の建設に従事、終戦を迎えた。

昭和22年4月新憲法下、初の衆議院議員に当選、その後連続当選六回。衆議院建設、予算、外務、農林水産、内閣等各委員会理事並びに決算委員長を務め、また東北開発積寒審議特別委員会委員として活躍した。

昭和42年12月、全日本農民組合連合会結成10周年記念大会において表彰を受ける一方、昭和43年田川地方に出稼者組合を組織するなど、その業績は高く評価されている。

以上のとおり、戦後の我が国の混乱期に衆議院議員として、国民生活の向上安定と農民運動に活躍された。

昭和57年4月春の叙勲で勲二等瑞宝章を受章。

昭和58年に羽黒町名誉町民の称号が贈られる。

平成5年に逝去された。

秋元正雄氏

明治44年手向鶴沢町に生まれ、大正15年大東尋常高等小学校を卒業、青雲の志をたて上京、合資会社三国商店に奉職し、苦学力行の末、中央商業学校、明治大学法学部を卒業。昭和9年佐藤ハガネ商店に移り、昭和12年には業績が上がり、佐藤商事合資会社となり、支配人となる。昭和24年佐藤商事株式会社専務取締役、昭和28年には同社代表取締役就任。

昭和16年以来、今日まで第一小学校に数千冊の図書を私財を投じ寄贈され、昭和31年には、これら図書の収蔵と閲覧を考え、図書館「修学館」を建設、母校の子どもの情操教育の向上発展に寄与する一方、昭和45年以降は、羽黒中学校を始め、第二、第三、第四小学校にも暖かい手を差し伸べ、現在まで数千冊の図書を寄贈された。

昭和37年4月には他に先駆け秋元育英会を設置し、世に役立つ人材育成にも尽くされ、同年6月には、向学に燃える若人の教育推進を望み、学校法人羽黒学園を創設し、自ら理事長に就任。

昭和41年には紺綬褒章、昭和49年には産業教育功労賞をそれぞれ受賞。

昭和58年に羽黒町名誉町民の称号が贈られる。

平成8年に逝去された。

平成8年に従五位勲四等瑞宝章を受章された。

戸川安章氏

明治39年手向池ノ仲に生まれ、昭和5年3月専修大学経済学部卒業。

昭和12年6月手向村村議会議員に当選、その後兼ねて手向村助役・村長代理を務める。

昭和22年5月県立鶴岡女学校に奉職。昭和48年3月鶴岡女子専門学校校長を退任まで25年余の長きに渡り子弟の教育に貢献する。その間、県文化財臨時専門委員、鶴岡市社会教育委員、鶴岡市文化財保護委員、社団法人荘内文化財保存会理事、県文化財専門委員に就任するなど、学校教育のみならず社会教育の分野でも広く活躍する。

当町においても昭和41年7月より文化財臨時調査員

として町に埋もれている多くの文化財の調査と指定、昭和53年4月よりふるさと教室常任講師として町民を対象とした町の歴史の研究指導に尽力している。さらに昭和61年2月より町史編纂調査執筆専門委員長として町史の発刊に多大な貢献をした。

また、当町の出羽三山を山岳宗教のメッカとして位置づけ、山岳修験道を学術的に広く国内外に知らしめるなど郷土の発展につくされた功績は町民等しく顕彰するものである。

これまで昭和38年高山樗牛賞、昭和40年県教育功労賞、昭和47年斎藤茂吉文化賞、昭和49年柳田国男賞を受賞、さらに昭和52年勲五等双光旭日章を受章。

平成9年に羽黒町名誉町民の称号が贈られる。

今井 繁三郎氏

明治43年旧泉村戸野に生まれ、昭和2年県立鶴岡中学校卒業後、東京芝絵画研究所を経て、全国各地の画壇の活動に専心。

昭和20年に帰郷し川代山開拓に従事以来、地元での画家活動に入る。昭和32年には庄内を拠点とした美術団体

叙勲・褒章

年	芳名	種別
昭和32年	佐藤 伊八氏	藍綬褒章
昭和43年	山田 悌介氏	勲五等瑞宝章
昭和47年	金野重次郎氏	勲六等旭日章
	佐藤 佐吉氏	勲五等瑞宝章
昭和51年	叶野 忠氏	勲六等瑞宝章
昭和53年	山本 武子氏	勲六等瑞宝章
昭和54年	阿達英次郎氏	勲五等瑞宝章
昭和55年	岡部久治郎氏	勲六等単光旭日章
昭和56年	故 本山勝太郎氏	従五位勲四等瑞宝章
	故板垣羽右衛門氏	従六位勲五等瑞宝章
昭和57年	上林 専吉氏	勲五等双光旭日章
	小野寺 忠氏	勲五等双光旭日章
昭和58年	佐藤 繁雄氏	勲五等瑞宝章
昭和59年	今井 金吾氏	勲六等単光旭日章
昭和60年	金内 七郎氏	黄綬褒章
	小林 政雄氏	勲六等単光旭日章
	岡部 元治氏	勲五等瑞宝章
昭和61年	芳賀 憲吾氏	勲七等青色桐葉章
	加藤 元市氏	勲五等双光旭日章
	故 丸山 八一氏	勲六等単光旭日章
昭和62年	三浦 勇一氏	藍綬褒章
	野口 廣一氏	勲五等瑞宝章
	阿部 富子氏	黄綬褒章
昭和63年	阿部 實氏	勲六等瑞宝章
	故 星野 弘氏	勲五等瑞宝章
	佐藤 文子氏	勲五等宝冠章
平成元年	故 後藤 彊一氏	正六位勲五等瑞宝章

芳名に「故」とあるのは、追贈（死亡叙勲）を表す。なお、昭和55年以前の死亡叙勲は割愛している。

名誉町民は、別記参照。

「白鴉社」の委員長に就任。

昭和22年から旧泉中学校教諭に10年間奉職。昭和38年から社会教育委員を18年間努められ、教育分野での活躍も顕著である。昭和32年に町の広報委員長に就任し36年間の長きに渡り広報公聴活動の発展に貢献され、町章・町旗の図案化や旧泉中学校校歌の作詞、町民憲章策定に指導的役割を果たされる。

昭和54年に斎藤茂吉文化賞、昭和58年に光陽展文部大臣奨励賞、平成8年に鶴岡市特別文化功績賞の栄に輝く。平成2年に私財を投じ、全国レベルの美術館といえる「今井美術館」を設立。

近年も長崎、東京などで個展を開き、美術グループを結成するなど、絵画を通じ地方と中央、地域と地域の相互交流の推進に尽力される。

全国に比類なき美術団体を作り上げ、当町を広く多方面に知らしめ、郷土の発展に多大な功績を尽くされた。

平成13年に羽黒町名誉町民の称号が贈られる。

平成14年に逝去された。

年	芳名	種別
平成2年	草島 光也氏	勲六等瑞宝章
平成3年	故 勝木 貞藏氏	勲五等双光旭日章
	佐藤 彌市氏	勲五等瑞宝章
	青木 岩雄氏	勲五等瑞宝章
平成4年	故 大川鉄太郎氏	従六位勲五等瑞宝章
	鈴木重次郎氏	勲五等瑞宝章
	斎藤 茂雄氏	勲六等瑞宝章
平成5年	故 太田 良雄氏	従五位勲五等双光旭日章
	伊藤榮太郎氏	勲六等瑞宝章
平成6年	生田 栄作氏	勲六等瑞宝章
	金内 七郎氏	勲五等瑞宝章
平成7年	中野 安豊氏	勲五等瑞宝章
	丸山 博氏	勲六等単光旭日章
	故 吉田 豊作氏	勲六等瑞宝章
平成10年	半澤久仁松氏	勲五等瑞宝章
	故中村菟喜太郎氏	勲六等単光旭日章
平成11年	故 田村 重吉氏	勲六等瑞宝章
平成12年	故 佐藤 元吉氏	勲六等旭日章
	故 山本 隆二氏	勲六等単光旭日章
	日向 三郎氏	勲五等瑞宝章
	五十嵐昭一氏	勲五等瑞宝章
	榎本 重範氏	勲五等瑞宝章
平成13年	本間富美治氏	勲五等瑞宝章
	澤川 来壽氏	勲五等瑞宝章
平成14年	渡部 辰治氏	勲六等単光旭日章
平成15年	水口 俊蔵氏	瑞宝双光章
平成16年	菅原 金治氏	瑞宝双光章